

が集中するケース。もう一つは、能力が足りなくて仕事に時間がかかるケース。さらに、単に仕事量が多いというケースもあります。こうした状況を把握した上で、各自の分担を決め、その上でどうしたら全体量を減らせるか議論することが大切です。

## 男性もつらい！

馬車馬のように働くという言葉がありますが、まさに夫が一頭立ての馬車になって長時間働いて家族を養ってきたというのが、高度経済成長期の一般的な家庭のスタイルでした。

しかし、このシステムでバブル崩壊後の少子高齢社会を乗り越えていくのは不可能です。収入が増えないのに荷物は重くなるばかり、一頭立ての馬車は倒れてしまいかねません。

自殺者の男女比は7対3で、圧倒的に男性の割合が高く、98年から14年連続で3万人を超えています。要因の一つは40代〜50代の働き盛りの自殺者が増えたことで、この年代の男性では経済上の理由がトップになっています。妻子を養う責任が男性にとって重荷になっていることがうかがえます。

同じく離婚率も98年以降、14年連続で3割を超えています。97年はアジア経済危機の年で、その後、証券会社や銀行が潰れた時代です。日本経済が大きく傾き、自殺と離婚が増えたということが言えます。

自殺者の中にはうつ病にかかっている人が多くいると言われています。実は私も9年前からうつ病で、現在も治療を受けています。朝起きられない状態で、毎日自転車子どもを送っていくのは辛かった。常に追いつめられるような気分がつきまわっていました。

私は、仕事と家庭なら家庭を優先したいと思っ

ています。家事・育児を優先し、仕事は残りの時間でやれる範囲でしたいと考えています。仕事のプレッシャーはもちろんありますが、家庭重視のライフスタイルを選びたくてこの分野の研究者になりました。自分が理想とするライフスタイルの研究ができるという意味では恵まれているし、幸せな暮らしだと思っています。

## あなたにとって 幸せな暮らしとは

男女共同参画社会は、誰もが個性と能力を発揮できる社会です。仕事重視の男性社会の秩序に女性が入っていくのではなく、女性と男性で新しい社会を築いていこうというものです。

男女が共に働き、いきいきと自分らしく暮らすためには、労働力の再生産、つまり家事や育児、介護を働きながら行える体制が必要です。少子高齢社会を乗り越えていくには、みんなで働いて、みんなで家事・育児・介護を分担していくシステムを作っていかなければならないのです。

少子高齢社会を一頭立ての馬車で乗り越えるのは大変です。家庭を築くうえで、一人が600万円稼ぐ仕事重視の生活と、男女で300万円ずつ稼ぎ、ともに7時に帰宅できる生活では、あなたはどちらがいいですか。あなたにとって幸せな暮らしとは？ 男女共同参画の視点から考えていただきたいと思います。

### PROFILE



**瀬地山 角** せちやま かく  
 東京大学教養学部卒業、  
 現在東京大学教授。専門  
 はジェンダー論。著書  
 に『東アジアの家父長  
 制』『お笑いジェンダー  
 論』（いずれも勁草書房）  
 など。実践をともなった  
 研究者を標榜し、子ども  
 の送迎と夕食作りを担  
 当する毎日。



## 講演会の アンケートより…

講演会を終えてお寄せいただいたアンケートの中から、いくつかのご意見・ご感想を紹介します。

- 社会の仕組み、自分の意識、パートナーの意識が複雑に絡み合って一度にすべてを変えるのは難しいが、少しずつ自分の意識から変えていきたい。(40代・男性)
- ジェンダーについて知る機会があったことをチャンスと考えて、少しずつ動いていきたい。(30代・女性)
- 昨年は震災の影響で企業も早朝出勤、早めの退社で節電対策をしていた。お父さんが早く帰ってくるようになり、子どもと夕食がとれるというシーンをニュースで見た。社会を変えるには企業の力が大きいのでは？(30代・女性)
- 2人で働いて、2人とも7時に帰るという選択肢があるということに気づいた。(30代・男性)
- ワーク・ライフ・バランスを夫婦単位で考えると、今までの女性問題が解決できるように思う。(40代・女性)
- 政治のバックアップがもっとあっても、自分でできることとして、自分の家庭から進めていこうと思う。(30代・男性)
- ワーク・ライフ・バランスを単体で考えていたが、夫婦合わせて2人で考えるという視点にはハッとした。男尊女卑のマインドや働き過ぎの現状も大きな影響を与えていると思うので、もっと勉強していきたい。(30代・女性)